

若狭湾水中散歩

京大水産 実験所 益田 玲爾

21

イシガニ

夏、京都から臨海実習を受講しに来た学生さんに「舞鶴の人って、冬は何してるんですか?」と尋ねられたことがある。

失礼な質問とそれなくもないが、筆者、にんまりと笑つて曰く。「カニ食うんだよ」。子供の頃から、半ば病的にエビとカニが好きだった。子供ができた宣言して、いた頃もあつた。家族中のエビフライのしつばを集めて食う子供は、親戚ではしばしば食する善き食文化が息づ

話のネタにされていたようである。そんな筆者が舞鶴に来てうれしく思つたことは、この地の人々に「舞鶴の人って、冬は何してるんですか?」と尋ねられたことがある。

がカニに対して相当な執着を持つていてことだ。もちろん、冬場に毎日カニを食う人などそういうものではなかろう。しかし日常の話題として「この週末はカニを食べに行くんだ」といった話が出てくる。もちろん、買って鍋に入れて食うもよし、忘年会で食うもし。大切なのは、カニを

今宵のごちそう握りしめ

いているということだ。さて、写真のイシガニは、カニの中ではジャンクな部類に入るかと思

う。舞鶴周辺の防波堤で、市販の蟹カゴに魚のアラ二を食う人などそういうものではなかろう。しか

り、たいていの魚は隠れて寝てしまう。そして夜

を入れておけば簡単に採れる。湯がいて食べてもなかなか旨いが、たたき割つてみそ汁に入れると大変に良いだしがあるのである。この写真を撮影したときは、海の生物たちの生態を昼と夜とで比較する調査をしていた。昼間たくさんいた魚たちは夕方になるとぼつかつと減り、たいていの魚は隠れて寝てしまう。そして夜

陰に乗じてエビやカニがはい出てくる。撮影したのは日没直後の夜六時台。イシガニ君は果敢にハサミで威嚇しながらも、今宵のごちそうであります小さな貝をしっかりと握りしめている。撮影しながらもなんだか、蟹からおむすびをだましとつた「猿蟹合戦」の猿になつた気分を味わい、妙に気が引けた。



高浜町音海の水深3mで撮影されたイシガニ。握りしめているのはムラサキイガイ